砺波市の歴史年表

砺波のおもなできごと				日本のおもなできごと		
縄文時代	2万年前	旧石器時代	芹谷遺跡などから旧石器が出土			
	3000		巌照寺遺跡・増山遺跡に住居跡、中尾遺跡から御物石器が出土			
			松原遺跡から土器や住居址などが出土			
弥生時代	紀元前	原始時代	扇央部の久泉遺跡で打製石斧が大量に出土			
	紀元後		小矢部川左岸や扇状地扇端部の低地に集落ができる	一世紀	100	倭の奴国の国王が後漢に使いを送る
	200		小矢部川左岸に若宮古墳など多くの古墳が築かれる	三世紀	300	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る
	300		庄川右岸の庄金剛寺地内に古墳が築かれる			
古墳時代	400					
	500					
	600	飛鳥時代	波利古臣（利波氏の祖先）が利波評（郡）を与えられる			
	700	大宝	利波臣志留志、東大寺に米二千碩を寄進し外従五位下を授けられる	七〇一	大宝	大宝律令
		和銅	利波郡川上里から平城宮へ鮒などが運ばれる	七〇二	和銅	都を奈良（平城京）に移す
		霊亀	東大寺の僧、平栄が越中の墾田を占定する			
		天平	東大寺墾田地の開田地図などを提出する（伊加流伎野と石粟村）			
		天平神護	利波臣志留志が越中員外介に任ぜられ、墾田百町を東大寺に献上して従五位上を授けられる			
		天平八	大伴家持が越中国守に赴任する（～七五ページ）	七三五	天平五	墾田永年私財法
奈良時代		天平勝宝	越中国守や員外介志留志らが東大寺墾田地の開田状況を調べ、翌年東大寺三綱所に報告する	七四七	天平勝宝	初めて法王宮職が置かれ、道鏡政権が確立
		〃	越中国守や員外介志留志らが東大寺墾田地の開田状況を報告する（井山、石粟、杵名蛭）			
		〃	砺波郡では井山、伊加留岐、石粟、杵名蛭の各村がみられる			
	七四四	延暦	久泉遺跡に荘園に導水する大溝と溝管理施設の溝所ができる	七八四	延暦	都を京都（平安京）に移す
	七九四		志留志、伊賀の国守になる			
平安時代	八〇〇代	承和	和名抄が完成し、それによれば越中国砺波郡に十一郷（山上、八田、合、拝師、長岡、大岡、高渠、陽知、三賀、意賀、大野、小野）がある			
	九〇〇代	延喜	延喜式が完成し、その神名式に砺波郡七座（高瀬神社、長岡神社、林神社、剪波神社、比売神社、雄神神社、渋江神社）がある			
	九世紀		梅檀野に須恵器窯が築造され、福山窯からは瓦塔などが出土			
			扇央部の小杉遺跡などから須恵器が出土			
鎌倉時代	一〇八六	白河		一〇八六	白河	白河上皇の院政が始まる
	一一二〇	寿永	木曽義仲が般若野で平盛俊を破り、倶利伽羅の合戦で平維盛を破る			
	一一八五	文治	徳大寺公能が越中守に任ぜられる。このころ徳大寺家領般若野荘が成立			
	一一八五	〃	大地震で、千保川が東へ分流して現庄川の流路ができる			
	一一八五	文治	利波・射水・婦負の三郡が前田氏の領有となる	一一八五	文治	豊臣秀吉が関白となる
	一一八六	文治	上杉謙信が増山城を落とす			
	一一八六	建久	上杉謙信が増山城を攻める			
	一一九〇	建久	増山城に拠った神保長職が上杉謙信に攻められる			
	一一九五	建久	徳大寺実孝通、般若野荘で殺される			
	一一九〇	文治	越後守護代長尾能景が一向衆徒と戦い、能景は般若野（芹谷野合戦）で敗死する			
南北時代	一二四〇	延徳	太秦安楽院と冷泉家の間に油田条（村）をめぐる相論がおこる			
	一四四〇	文明	田屋川原の合戦で一向衆徒と石黒勢が戦い、石黒勢が滅亡にいたったという			
	一四四四	文明	徳大寺実淳が家領の般若野荘に来る			
	一四七〇	文明	本願寺八世蓮如が越前吉崎に御坊を建てる			
	一四七七	応仁		一四七七	応仁	応仁の乱
	一四世紀		薬勝寺招請開山桂岩運芳の頂相がある			
	一三九一	明徳		一三九一	明徳	南朝と北朝が一つになる
	一三九〇	明徳	本願寺五世綽如が井波に瑞泉寺を開く			
	一三七六	応安	能登守護吉見氏頼らが乱入した桃井直常・直和父子の軍勢を逆襲して			
	一三七一	文中	越中に攻め入り、千代ケ様城・井口城を陥れる			
	一三七一	建徳	和田城（増山城）に拠った桃井直常は二宮円阿の攻撃にあい、のち和田城は北朝方の二宮氏に帰す			
	一三四一	康永	鎌倉覚園寺領目録に「越中般若野庄内三谷寺寄進状一通」がみえる			
	一三四一	建武		一三四一	建武	建武の新政
鎌倉時代	一二八六	弘安	鎌倉幕府は平賀氏に油田条（村）の所職を認める			
	一二七〇	文永	若狭国田鳥浦に越中般若野などの米が着く			
	一二六三	文応	名越朝時が北陸道諸国の守護となり、放生津で政務をとる			
	一二三一	承久	鎌倉幕府軍が般若野に陣し朝廷軍を破る	一二二一	承久	源頼朝の乱、征夷大将軍となる
	一一八五	文治	徳大寺公能が越中守に任ぜられる。このころ徳大寺家領般若野荘が成立			
平安時代	九〇〇代	延喜	延喜式が完成し、その神名式に砺波郡七座（高瀬神社、長岡神社、林神社、剪波神社、比売神社、雄神神社、渋江神社）がある			
	九〇〇代	承平	和名抄が完成し、それによれば越中国砺波郡に十一郷（山上、八田、合、拝師、長岡、大岡、高渠、陽知、三賀、意賀、大野、小野）がある			
	八世紀		扇央部の小杉遺跡などから須恵器が出土			
	九世紀		梅檀野に須恵器窯が築造され、福山窯からは瓦塔などが出土			
安土桃山時代	一五九六	慶長	利家が里山村（庄川町町山間の村）などに検地状を下し納税額を定める			
	一五九六	慶長	加賀藩によって利波郡が総検地される	一六〇三	慶長	徳川家康が征夷大将軍となる

西暦	1世紀	2世紀	3世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀
時代区分	弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌倉時代		南北時代	室町時代		安土桃山時代	江戸時代
時代区分	縄文時代						古代				中世					近世	

| 年 | 年号 | 年 | 年号 | 年 | 年号 |